

豊見城城址跡地利用構想

平成25年4月25日

豊見城市 経済建設部 振興開発課

◆土地利用構想（豊見城市独自の構想・考え方）

1. 土地利用の方針

(1) 基本的な考え方

本計画地の資源・ポテンシャルと有望な関連動向を考え合わせると、土地利用を図る上での優先事項として、「グスクの保全・活用」が挙げられ、併せて現在取り組んでいる「空手道会館の整備」「工芸会館の誘致」をコンセプトづくりの中に取り入れて、これら歴史文化資源の調和と連携のとれた空間整備（ゾーニング）を図る。

グスクの保全・活用

豊見城グスクは、県下でも有数の重要遺跡である。斜面緑地も含めて保全されてきた史的空間を、往時の姿に近づけつつ、現在・未来の市民が親しめるように有効に活用していく。

空手道会館の整備

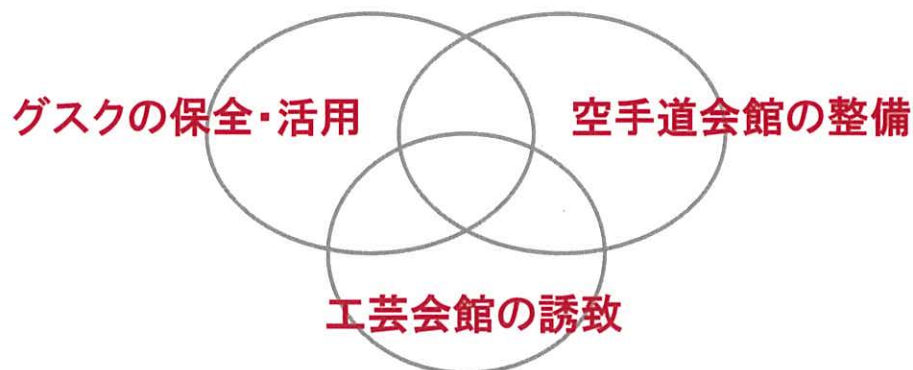
グスクの歴史性を尊重し、この場所に沖縄伝統空手の総本山を整備することで、平和の精神や礼節など沖縄の美徳を世界中に発信していく。

工芸会館の誘致

文化資源の工芸産業振興の中核となる施設を整備し、後継者・若手職員の育成、企画・販売、製作体験、展示・情報発信等を図る。

また、これらに、土地利用構想に反映すべき導入機能として、「体験学習・観光交流機能」「宿泊機能」「スポーツケア・健康機能」等を取りあげて検討する。

【本計画地に期待される役割】



+ α (体験学習・観光交流機能/宿泊機能/スポーツ・健康機能)

新しい公共性を生み出す参加型の仕組み

(2) 土地利用のコンセプトと方針

1) コンセプト(その1)

歴史的雰囲気にあふれる「空手の総本山」の形成

沖縄は空手発祥の地である。この地に沖縄県の空手道会館を誘致する。

五千万人といわれる国内外の空手家が憧れ、訪れたいと思わせるように、沖縄らしい歴史的空間を整備し、その中で空手の真髄を将来にわたって継承・発展させていく「空手の総本山」としての場所のブランド化を図る。これにより、沖縄観光と国際交流に寄与するとともに、健全な青少年育成をとおした人材育成の拠点としても機能させる。



県営奥武山公園と連携してのスポーツ拠点化の中での「空手の総本山」

県営奥武山公園を中心に、那覇市山下町・小禄～豊見城市豊見城の一带には漫湖公園、漫湖公園市民庭球場、民間スポーツクラブ、豊見城ゴルフ練習場等が立地しており、城址公園跡地にスポーツ機能を誘致することで、県内有数のスポーツ拠点地区としての位置付けが可能である。このスポーツ拠点の奥座敷に空手道会館が配置され、「空手の総本山」が形成されることにより、奥武山公園のスポーツ機能とも有機的な連携が図れる。また、県立武道館との距離的な近さは、双方が連携して国際大会や全国大会等の大きなコンペティション、セレモニーを開催できる強みとなり、空手機能の集約化による数々のメリットが享受できるようになる。



2)コンセプト (その2)

「伝統工芸文化」と「グスク、空手」の連携・発信

本県には、優れた文化資源(織物、染物、陶器、漆器、ガラス等)があり、それら工芸産業振興の中核となる施設「工芸会館」を整備(誘致)する。

各種産地組合や基本構想策定委員会等からは、「後継者・若手職員の育成」や「展示や情報発信機能の強化」「企画・販売」「製作体験」「宿泊・滞在機能」が求められている。

豊見城グスクの歴史性、沖縄空手の持つポテンシャルと連携・発信することによる相乗効果により国内外の多くの方への情報発信が可能となる。

◆ 伝統工芸



豊見城グスク・空手道会館・工芸会館の連携

豊見城グスク・空手道会館・工芸会館が連携することに加え、さらなる機能等の導入、融合により、それぞれが持っているポテンシャル以上の能力を発現する。



3) 土地利用方針

① 自然環境や地形の起伏に配慮する

本計画地では、島尻地域（沖縄本島南部）の石灰岩提緑地の最北に位置する斜面緑地が広範囲に分布しており、水源涵養や地すべり等の災害防止、生態系の保全等の機能の保全を図り、「緑のリードオフマン」として市民・県民の自然体験やアウトドア、憩い等の活動の受け皿となるよう配慮する必要がある。また、漫湖湿地帯の法律に基づく利用規制にも留意し、生態系をむやみに乱さない範囲での土地利用をこころがける。

② 歴史文化資源の範囲や分布に配慮する

豊見城グスクは琉球史上の重要な大型グスクであり、真珠道と併せての整備が期待されているほか、計画地内には埋蔵文化財包含地、拝所などの祭祀空間、井泉、戦跡等も分布しており、これらの位置や範囲を十分に考慮して、保全と活用の線引きを見定める必要がある。

③ 活用の利便性や界隈性の創出に配慮する

本計画地周辺では市道2号線が改修整備され、アクセス条件が大幅に改善されることから、こうした道路事情の変化及び、周辺道路から計画地内への引き込み線の配置等も考慮し、利便性や界隈性が高まる場所にはふさわしい機能、施設が配置されるように意識する必要がある。同様に、南斎場の位置にも配慮したゾーニングが求められる。

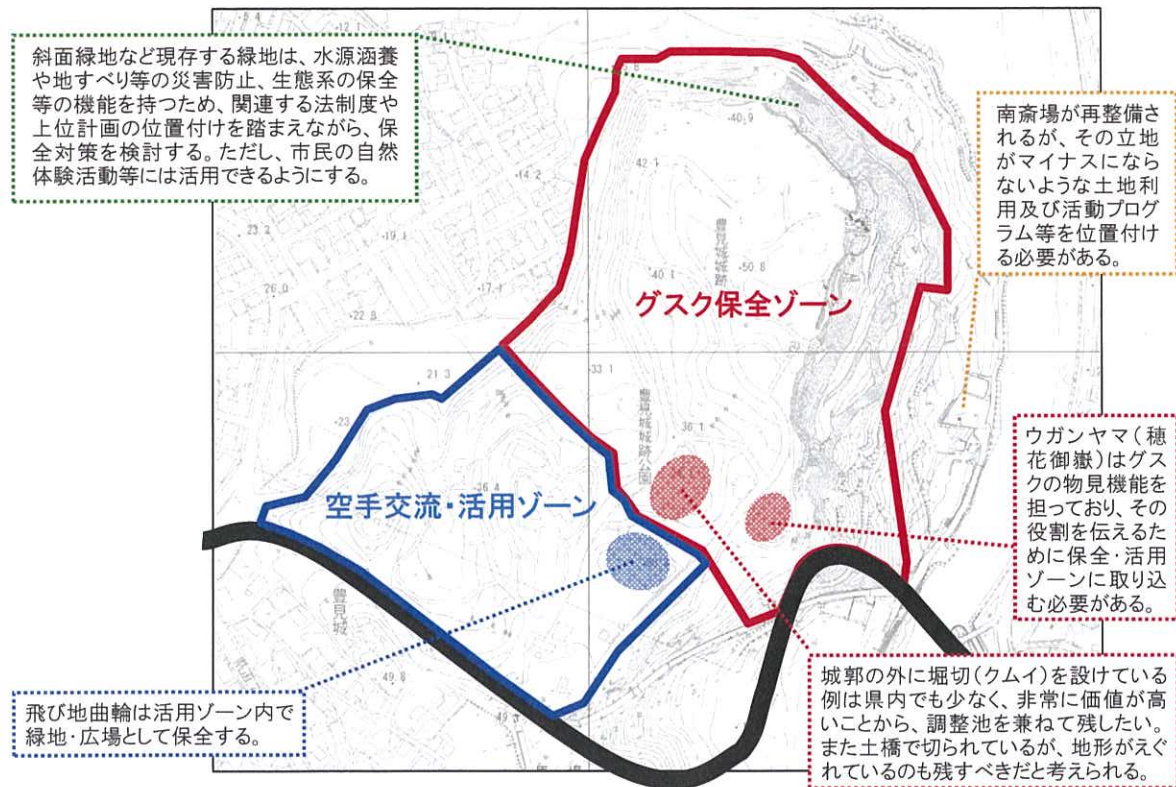
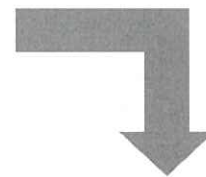
④ 全体の一体的な利用

本計画地で導入が考えられる機能、施設、活動等は個別に整備するのではなく、互いに有機的な連携を持つように配置する必要がある。施設の管理運営や経営にあたっては、可能な限り一体的に行うことが効率的であり、少なくとも園地部分については土地の所有権や賃貸借権によらず一括維持管理の枠組みを設けることが重要となる。

(3)ゾーニングの考え方

本計画地では、大きく分けて「グスク保全ゾーン」と「空手交流・活用ゾーン」を設定し、それぞれ保存と活用をベースとした土地利用を図ることを基本とする。

図 ゾーニング区分図(案)



2. 主要な施設の整備イメージ

①空手道会館

空手道会館（仮称）は沖縄県が整備を計画している公共施設であり、平成23年度の基本構想ではコンセプトが「空手の発祥を伝え、真髄を学ぶ拠点」とされ、「沖縄独自の文化遺産として保存・継承・発展させるとともに、『空手発祥の地・沖縄』を国内外に発信する拠点として整備する」と方針づけられている。主な施設内容として、道場・演武場、展示室、セミナールーム、空手道振興会事務所等の施設が検討されている。

参考事例の写真



少林寺拳法連盟本部(香川県多度津町)



京都旧武徳殿

②グスクガイダンス施設

ガイダンス施設は、豊見城グスク及び関連文化資源等を紹介する歴史学習の場であり、来訪者の憩いの場として設定する。グスクがたどった歴史を出土品や写真パネル等とともに展示するだけでなく、整備の完成形や歴史における象徴的なシーンを想定再現したジオラマを設置することも考えられる。映像で紹介する視聴覚コーナー、グスクに関する様々な情報をパソコンで確認するPCコーナー、発掘状況や報告書、歴史関係図書等を閲覧できる書籍コーナーなどで充実することが望ましい。また、グスクを探訪するルート案内や各地点で見ることのできる風景を写真で紹介するフィールドマップも考えられる。

参考事例の写真



浦添グスクようどれ館



③体験学習センター

子どもをはじめとした市民、観光客や修学旅行生を対象として、様々な体験学習プログラムを運営している公共施設が全国には多数分布しているが、本市においても近年そのニーズは高まっている。豊見城市観光協会では、体験講座や講習を提供する「豊見城大学」を開講し、市民のほか観光客、修学旅行生に対して体験機会を提供しているが、現在は核となる施設がないことがネックとなっている。

参考事例の写真



恩納村ふれあい体験学習センター



金武町ネイチャーみらい館

④民間ホテル

空手道会館では当初、海外からの空手研修生のための宿泊施設を検討していたが、管理運営の観点から県事業としては見送られている。しかし、空手関係者を中心に宿泊機能の要望はあり、県事業を補完する機能としての整備が考えられる。ただし、その場合はグレードの設定が鍵となる。(裕福な利用者層を設定するのであればハイグレードだが、宿泊面での補助を最も必要としている発展途上国等からの空手研修生向けであれば、公共の宿も含めたローグレードの整備)

参考事例の写真



星のや竹富島



百名伽藍(南城市)



国頭村やんばるの学びの森 ※公共宿泊施設



東村つつじエコパーク ※公共宿泊施設

⑤(仮称)沖縄県工芸会館

- ・現在、沖縄振興特別推進交付金(一括交付金)を活用し、沖縄県商工労働部で検討している事業
(以下、検討委員会資料より抜粋・整理)

【目的】

工芸産業を振興、発展させ、伝統工芸など本県の優れた文化資源を活用した産業を創出する。

【概要】

本県の優れた文化資源(織物、染物、陶器、漆器、ガラス等)の工芸産業振興の中核となる施設を整備し、後継者・若手職員の育成、企画・販売、製作体験、展示・情報発信等を図る。

H24 調査・構想策定

H25 整備場所の選定、設計

H26 整備

H28 完成・供用

※豊見城市としては、(仮称)沖縄県工芸会館を積極的に誘致する。